



地震で崩落した高島橋(現在の高島橋)

写真:墜落セル鉄道戸塚大船橋高島橋「大正12年9月1日大震災写真帖」(横浜市中央図書館所蔵)

関東大震災から100年

「お家で避難」のための備え



1923(大正12)年9月1日、マグニチュード7.9の関東大地震が横浜を襲いました。地震後に発生した火災のために、被害が拡大し、市内では、35,000棟を超える家屋が倒壊・焼失、約26,000人の死者・行方不明者が出ました。当時の戸塚地区(現在の戸塚町周辺)では、836棟中731棟の家屋が全壊・半壊となり、31人の死者が出ました。

あの日の教訓から、家屋の耐震性能は向上し、完全に倒壊する危険性は低くなっています。地震が起きたら「すぐに避難場所へ！」ではなく、自宅での避難生活を考えましょう。

在宅避難のメリット

● 慣れ親しんだ自宅でストレスフリー

● プライバシーが確保されている

● ペットと一緒に生活も

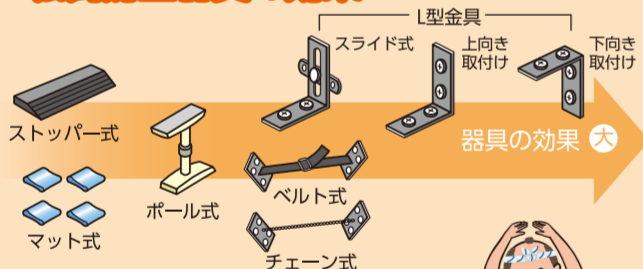
自宅はどう？避難生活が送れるかチェック！

避難生活を送るためには、自宅の安全が大前提。地震に備えて日頃から対策しましょう。

家具の転倒防止対策

L型金具や突っ張り棒などで、家具の転倒防止をしましょう。器具は自宅の状況に合うものの中でより効果が高いものを選びましょう。

転倒防止器具の効果



ペットのための備え

不慣れな場所はペットにもストレスがかかります。在宅避難のための準備を整えましょう。

屋内で飼っている場合

家具やケージを固定しておきましょう。



屋外で飼っている場合

飼育場所は倒れやすいものそばや、ガラス窓の下は避け、首輪やリードは点検しておきましょう。

ガラス飛散防止フィルムを貼る

地震でガラスが割れると、部屋を歩くことが困難になります。

感震ブレーカーの設置

地震の大きな揺れを感じて電気を自動で遮断する機器です。通電時に電化製品からの出火を抑制する効果があります。

身の安全を最優先！火の始末はその後で！

揺れているときに、無理に火を消そうとすると、食器棚の転倒に巻き込まれたり、熱した調理器具が落ちてくるなどの危険があります。揺れが収まってから慌てず火の始末を！

食べ物・水などの備蓄

食料・水は最低3日分、1週間分あればもっと安心です。普段の買い物で少し多めに買いおきして、使った分を補充すると、一定の備蓄が無理なくできます。



ペット用の備蓄も忘れずに！

もっと知りたい人はチェック！

区役所9階で配布中



防災ブック

子どもにも分かりやすく備えと工夫を紹介しています。



区役所9階で配布中



戸塚区防災リーフレット(視覚障害者編)

日頃からの災害への備えや発災時にどのように行動すれば良いか確認しましょう。



区役所9階で配布中



防災よこはま

地震や台風などの災害に対する自助・共助の取組の参考にしてください。



WEBのみ



よこはま防災e-パーク

いつでも・どこでも災害に備えるうえで必要となる知識を身近に学べます。



区役所庶務係 (TEL) 866-8307 (FAX) 881-0241

自宅に住めない場合は…

地域防災拠点へ！

地域防災拠点とは

- 自宅に住めない状態になった人が避難生活を送る場所
- 区内では35か所の小中学校が指定
- 地域の人々が運営



避難した人自身も、運営する立場になります！

今回は、日頃から防災対策を進めている齋藤会長へインタビューしました！

戸塚区地域防災拠点運営委員会連絡協議会 齋藤会長

Q 戸塚区の防災対策の特徴について教えてください

A 一口に戸塚といってもとても広く、マンションが多い地域もあれば戸建が多い地域もあり、それぞれの地区に応じた細かな対策、協力体制を考える必要があります。

Q 日頃の活動からどのようなことを感じていますか

A 拠点で避難生活ができる人数には限りがあります。多くの人が在宅避難をすることになるため、いかに日ごろから準備しておくかが重要だと感じています。

Q 在宅避難について取り組んでいることはありますか

A 住んでいる地域では、在宅避難のポイントや災害発生時の行動を分かりやすくまとめた冊子を作成し配付しています。また、地域でアンケートをとると、食料や水は約7割の人が備えているという結果でした。しかし、トイレは約3割。トイレ対策はまだ課題です。

Q 最後に一言お願いします

A 地域防災拠点は、地域に住む人で運営しています。いつか起こる大地震に対し、他人事ではなく自分の問題として捉えて、助け合う気持ちをもっていただけたらと思います。

